

ギアリンクス便り 第14号 2007年4月発行

〒505-0051 岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣 343

ホームページ www.gialinks.jp

代表取締役 中田智洋 (株)サラダコスモ

取締役 大西 隆 (有)セントラルローズ

取締役 桜井芳明 桜井食品(株)

取締役 渡辺好弘 チュウノー食品(株)

取締役 加藤孝義 (株)岐孝園

監査役 渡辺基成 渡辺会計事務所

ギアリンクスの集い 開催します

別紙にてご案内を同封しましたが、来る4月30日(月)に中津川市のちこり村(サラダコスモ内)において「岐阜県と日本の食糧問題を考える」と題して株主の方を対象にお集まりいただき、今年4月に収穫したばかりのアルゼンチン大豆で作った豆腐等を味わう会を催します。当日は中田社長が昨年末にオープンしたチコリの栽培施設や焼酎蔵等を案内させていただきます。連休中の開催のため、何かとご多用とは思いますが皆様のご参加をお待ちいたします。お申し込みは別紙にて。

第6回 農場ツアーのご報告



第一農場の入り口にて

今年も1月から2月にかけての12日間、アルゼンチンの農場を訪ねるツアーを行いました。今回は参加者が19名と少なかったのですが、大豆が順調に育っていることを確認でき、日本から持ち込んだ「フクユタカ大豆(今栽培中の大豆よりも豆腐に向く大豆)」の種子農場の面積が拡大できている事を確認できた

有意義なツアーでした。以下ご参加いただきました方の感想文をご紹介します。



種子用フクユタカ大豆の農場です

ツアーにご参加の方の感想文

農場見学ツアーを終えて 生田智美

アルゼンチン、農場見学、ギアリンクス??? 何だか良く分からないけど面白そうだから行ってみようと、そんな軽い気持ちでツアーに参加する事に。それが、偉大な企画旅行であると気が付いたのは、ブエノスアイレス空港に到着した後の市内へ向かう車中、短くて、かつ分かりやすい今回の旅の主旨の説明を受けてようやく、アルゼンチン、農場見学、ギアリンクスが繋がって一つの意味を成した時でした。

普段から必要なものは簡単に手に入るのが当たり前の生活の中で、“食糧危機”などと言う事は、どこか遠い国の話で、日本はそして私には関係のない事と思っていました。日本の食料自給率が先進国の中ではかなり低いと言う事を知り、そして将来の日本の食料事情を懸念し食料確保を目指しておられる方を前に、私はそれでも尚、そんな事はまだまだ先

の話と危機感も協調性も無い自分が、もしかして私は“アリとキリギリス”のキリギリス？と思い始めました。でもそれでは一体、食糧生産者でも関係者でもない一般人の私個人に何が出来るのだろうか？と思いつつ旅が始まりました。



レストランではステーキと言えば
一人前が約 500 g ほどです。

ところが、アルゼンチンの美味しいワインやビール、豪快な量の肉を目の前にすると、さっきまでの思いはどこへやら？改めて食糧危機で無い時に食糧確保について考え実行していく難しさを知りました。危機が来てからでは遅いと言う事は充分理解をしています。が、以前米不足で日本米が手に入り難くタイ米を食べた経験があるにも関わらず、その時が過ぎれば過去から学んだ事はすっかり忘れ、日々の物理的な豊かさを実感し感謝する事も無く暮らしているのは私だけでは無いはず、と安心するのもおかしい話で。今回お話しを伺う事ができたパラグアイやアルゼンチンの日本人入植者や移民の方、そして2世3世の方までもが、そんな今の日本・日本人を批判するのでは無く心配なさっておられました。日本を離れてみると日本がより、そして違った視点から見えるのかも知れません。

実は旅行前から気になる事が有りました。自己を主張する事が良いとされるアメリカで野放し状態が長くなった私は、果たして御一緒するツアーの方と失礼の無い様うまくやっ
ていけるかどうか。私が一人で勝手に思い込んでいるだけかもしれませんが、出身地も年齢も職業も違い何の接点も無いにも関わらず、

ツアーに参加された方そして現地の方と言語や文化以上に、日本人・日系人と言う事で信頼や安心感が有ったのか、そのお陰で構えること無く楽しく過ごす事ができました。色々な事がまるで偶然の様に上手く重なって思いもよらず参加する事になった今回の旅行は、観光と言うより人との繋がりだった様な気がします。マイペースで縛られるのが苦手な私は普段なら決してツアーに参加しません。これも、何かの縁だったのでしょう。岐阜県とアルゼンチンの意外な繋がり、意外な人達との繋がりでもある様な気がします。



在亜日本人会館前にて

南米ツアーの思い出

重光悦枝

中田社長の温かい『ようこそ』で始まった南米・アルゼンチンへの旅。一言で表すならば、‘感動！！の嵐’でした。人々との出逢い、大自然との出逢い、広大な大地との出逢い、を通して自分自身と出逢い、今、ここに存在している自分の意義・役割を長いバスの中、長いフライトの中で真剣に考えました。何の為に生き、何のために自分の人生を営んでいくのか。こんなにも自身の本心に向き合ったことは今までなかったような気がします。きっと、想像を超えた大自然の中で、ツアーの皆様のお話の中で、ギアリンクスの素晴らしい取り組みの想いに触れる中で、日ごろ忘れていた、人間本来の鋭敏な感性・五感、六感が、解き放たれたのでしょう！イグアスの滝にしても、ホテルの海にしても、手に届かんばかりの満天の星空にしても、大宇宙の大きな営みで、そして私もその大きな営みの中で生かされている。そのことを感じて、心からの感

謝の念が溢れてきました。両親へ、会社へ、仲間へ、大自然へそして大宇宙へ。ありがとうございます。ありがとうございます。この深いご縁に心から感謝申し上げます。

心の幅が広がりました。(おまけに身体の幅も ^ 0 ^ ;) 無限なる感謝。



イグアスの滝にて

南米を訪ねて 三宅 紀子

数年前からなぜだかわからないが、世界最大のイグアスの滝に行ってみたいという思いがつのり今回お陰様で実現することが出来ました。



イグアスの滝の下を巡るボートに乗船
この後、滝つぼに突入します

その滝に出合った瞬間、あまりの激しさに生き物が怒り狂っているようで恐怖感を覚えました。その反面、雄大な自然の力は何物にも勝るものはなく、大いなる力に抱かれているようなそんな感じもしたのだった。大自然の中にいると自分はなんとちっぽけな存在なのだろう、小さな事で日頃落ち込んだりし

ている事がなんだか恥ずかしくも思うようになり、今回の旅は私にとっていい体験でした。

ご一緒させて頂いた皆様、本当に有難うございました。



第二農場にて。手に持っているのはこれからエダマメにするために抜いたものです

“すばらしい農場” 高村勝昭

私達夫婦をアルゼンチンの旅へお誘い頂き、大変うれしく思っております。

今回の見学ツアーで、私達が何よりも先に頭に浮かんだ事は、もし移住民として行ったら、呆然としていたと思います。でもこの環境や色々な事に立ち向かいながら、あのステキな農場が出来たのだなど、作られた方々には頭が下がる思いでした。とにかく、農産物の作付けの莫大な規模には圧倒されました。



パラグアイのイグアス日本語学校に
日本語の教科書をお渡ししてきました

パラグアイ・イグアス方面では、ものすごく研究され、不耕起栽培を取り入れて播種を

行い、人件費の節約やムダな機戒の使用をなくし、燃費も使用しないことで、このような広大な土地でのこの作業工程が効率的だという事がよくわかりました。

私達も大豆については、バラまき・直まき・すじまき・色々と行っていますが日本では、雨期被害、野鳥被害などによって大変苦労しています。

パラグアイの方が作られた「非遺伝子組換え大豆」を手で触れさせて頂きましたが、すばらしい大豆でした。今後私達も、小麦・大豆・とうもろこし・お米などの作付けを頑張り、実り多い農業経営に取り組んでいきたいと思えます。

アルゼンチンを訪ねて

新美文二

アルゼンチンに 1,200ha もの農場を獲得し岐阜県の自給率を高めるために立ち上がったギアリンクスの方達との視察の旅です。

パラグアイのイグアス農協を尋ね 43 年前に 50 世帯の日本の方々が、農業移民としてパラグアイのジャングルを切り開き、大変なご苦労をされ大豆や小麦、トウモロコシ、ひまわり等を栽培し成功されている様子を伺いました。



パラグアイの開拓史の第一ページ

ジャングルを割り当てられ、木を切り倒し、
焼き払って農場にしました

在垂岐阜県人会の皆さんとの交流会では、日本人だけでなくアルゼンチンの方や二世三世の方を含め、50 名位で賑やかに歌や踊り

を交えとても楽しい会でした。

その後ブエノスアイレスからアンデス農場



岐阜県人会の新年会に参加しました

へ向けて 1400 キロのバスの旅です。延々と続く農場、左右の車窓が全く変わらない風景が何時間も、南アメリカ大陸を横断、日本列島の三分の二の距離を走破し、バスでの宿泊は始めてで本当に長い長い旅の体験でした。

道中ホテルの海に出会い途中下車し、我々を歓迎するかのようにホテルはどんどん増え乱舞をはじめました。ホテルの海の波に飲み込まれるほどの幻想にしばし酔いしれ、ロングウエーの癒しのひと時でした。農薬のない本物の大自然の姿を見せ付けられた思いです。

再び 40 キロに渡るホテルの海の地平線を駆け抜けアンデス農場へ、ここでも日本の移民農家の方々がイグアスの皆様と同じように開拓されたのですが塩害がきつく、現在では 5 世帯の皆さんが自然を相手に頑張ってお見えになりますが、移民での生活の過酷さが浮き彫りにされているようでした。

一方アンデスの農場 600 ha は手付かずの状態でしたが、バラデロのギアリンクス農場 600 ha はトウモロコシ、大豆とも例年より素晴らしく生育もよく、今年は黒字が出せそうだと期待されていました。

このギアリンクスの旅行を通じ大自然がもたらしたものの、大自然との闘いと共存、食糧問題の難しさ、夢と現実、自然に挑む人間力等々多くのことを学び、感動いたしました。

素晴らしい体験・経験が出来ましたことを皆様に感謝します。